

理事長に就任して

理事長 杉田 勝彦

私は、去る4月1日の理事會において、前任者である小林實現顧問の後任として、埼玉療育友の会の理事長に選任されました。

当法人は、現在、寄居町で障害児入所施設と療養介護事業所である埼玉療育園と障害者支援施設山鳩よりのを、富士見市で特別養護老人ホームはるな苑を運営しております。

最初の施設である埼玉療育園は、昭和33年初代理事長であり、整形外科医の蓮江信行博士により、埼玉県寄居町及び多くの地元の皆様のご支援、ご協力を賜り、風光明媚な寄居町に肢体不自由児の福祉の砦として開設いたしました。

その後、昭和55年に現在の山鳩よりのである埼玉療育園を、平成19年にはるな苑を開設いたしました。

地域福祉事業の取り組みとして児童発達支援事業、障害児者への相談支援事業、発達障害児等を対象とした

外来診察、短期入所事業などを行っております。

現在の当法人の大きな課題は、老朽化した埼玉療育園の改築整備と医療体制の整備及び開設後10年を迎えるはるな苑の短期入所事業の見直しであります。この二つの大きな課題に、法人役員と施設で日々利用者サービスに努めている職員の英知と力を結集し、埼玉県、富士見市、寄居町を始め関係者の皆様のご指導、ご支援をいただき、取り組んで参りたいと存じます。

もとより微力ではありませんが、伝統ある埼玉療育友の会の理事長として、精一杯務めて参る所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

平成28年度

職員研究・事例発表会

7月15日開催

今回は、7つの演題をそれぞれ発表8分、質疑応答3分で行いました。

発表者や参加者の職種や日常業務の内容は異なりますが、「法人内の他の施設のことがかかった」「モチベー

ションが上がった」等の感想が出されました。

「発表者からの感想」

重症心身障害児の自傷行為軽減に対する取り組み

埼玉療育園看護課

木持 敦子

入所一年後より自傷行為がエスカレートし、左耳介腫脹や発赤が強度に見られていたH君に対し、自傷行為が多く見られた時間を特定し、「スキンシップ」「食事のカロリーアップ」「光・音の出るおもちゃを与える」を対策として取り組みを行いました。その結果、その時間になっても自傷行為は見られず、左耳介腫脹もなくなり、穏やかな園生活を送ることができるようになりました。このことから、精神的に成熟していくうえで、スキンシップという愛情表現が大切であることを学びました。

今回「音楽が与える楽しさ」というタイトルで研究発表する機会をいただき、日常業務と少し違うアプローチが出来ました事をお礼申し上げます。違つ部署や施設の職員やご利用者に役立つ内容にしたい、と協力者のユニットリーダーのお二人に見もいただき、事務の皆様にご発表の練習を手伝っていただきました。ありがとうございました。

山鳩よりの地域移行の取り組み

山鳩よりの生活支援課

富田 真由美

7月15日、山鳩よりので法人研修が行われました。

今回初めての試みで事例の発表となりました。当日までに何回か練習をしましたが、当日はものすごく緊張しました。

質問が沢山来ましたが、皆さん地域移行に興味があるのだと改めて感じました。

療育園、はるな苑もいろいろな取り組みをしていると思います。はるな苑は事例発表をした事がないのに良くとめてあったと思います。とても勉強になりました。山鳩よりのも、もっと取り組んでいることを発表できればと思います。

音楽が与える楽しさはるな苑生活支援課

竹内 鷹微

今回「音楽が与える楽しさ」というタイトルで研究発表する機会をいただき、日常業務と少し違うアプローチが出来ました事をお礼申し上げます。違つ部署や施設の職員やご利用者に役立つ内容にしたい、と協力者のユニットリーダーのお二人に見もいただき、事務の皆様にご発表の練習を手伝っていただきました。ありがとうございました。

いました。

最終的に現時点での具体例を主にお話しでき、良い評価をいただき嬉しく思います。他の皆様の資料作りや発表手順等も近くで見られ、大変参考になりました。

自立訓練によって、施設変更が可能になった一例

埼玉療育園育成課

山口 千明

初めに、当園は医療型障害児入所施設（肢体・重心）ですが、ご利用者の将来性を見据えて、福祉型障害児入所施設（知的）への施設変更が望ましいと考えました。対象となるご利用者の食事面、歩行面での自立に繋がるようソーシャルスキルトレーニングを取り入れました。

本児を取り巻く環境を整える事により、本児自身が意欲的に取り組み、課題と目標を明確にし、アプローチを繰り返し継続する事によって、精神面、身体面の向上と習得が著しく成長した事により、施設変更へ繋げる事ができました。